### 改訂後(令和4年10月)

# 《P.4》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(1/7)

I	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
		鋳 鉄 管 継 手     ビニル管 継 手       ビニル管 継 手     接合要領書による       ボ リ 管 継 手			<ul><li>・写真管理(測点又は 40m毎)</li><li>・成果図</li><li>・継手チェックシート</li></ul>	
管の接	** 1	鋼管突合せ継手 (SP、SUS) (片面溶接》	ルート間隔 (a)  1 ≤ a ≤ 4  板厚 t ≤ 6  開先部の目違い(b)  b ≤ 1.5  板厚 6 < t ≤ 16  開先部の目違い(b)  b = 025t  板厚 16 < t  開先部の目違い(b)  b ≤ 4	- 口径、管種毎に全接 合簡所測定 - 合植継手チェックシート に記入	(呼び径700A以下) ルート開隔 (a) 目違い(b) ↑	- 写真管理 (測点又は 40m前) - 原成果図 - 龍手チェックシート
合		鋼管突合せ継手 (SP、SUS) (両面溶接》	ルート間隔(a) 0 ≤ a ≤ 3  板厚 t ≤ 6 開先部の目違い(b) b ≤ 1.5  板厚 6 < t ≤ 20 開先部の目違い(b) b = 0.25t  板厚 20 < t ≤ 38 開先部の目違い(b) b ≤ 5	- 口径、管種毎に全接 合箇所測定 - 各種継手点検表に記 入	(呼び後800A以上) V形内開先 16m未満 ルート間隔 (a) 日違い(b) X形開先 16m以上 ルート間隔 (a) ・ 別定箇所は、片面溶接と同じ。	- 写真管理 (測点又は 4 <mark>0m時)</mark> - 成果図 - 継手チェックシート

### 改訂前(令和4年4月)

### 《P.4》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(1/7)

工種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
	鋳 鉄 管 継 手		<ul><li>・口径、管種毎に全接 合箇所測定</li></ul>		·写真管理 ·成果図 <del>、管割図</del>
	ピニル 管 継 手	接合要領書による	<ul><li>・各種継手点検表に記</li><li>入</li></ul>		・継手チェックシート
	ポリ管継手		^		
		ルート間隔 (a)	<ul><li>・口径、管種毎に全接 合箇所測定</li></ul>	(呼び径700A以下)	·写真管理 ·成果図 <del>、管制図</del>
		1 ≦ a ≦ 4	<ul><li>・各種継手チェックシート</li><li>に記入</li></ul>	ルート間隔(a)	・継手チェックシート
		板厚 t ≦ 6	IC AC	l1 [	
		開先部の目違い(b)			
	鋼管突合せ継手	b ≦ 1.5		目違い(b) <b>↑</b>	
	(SP、SUS) (片面溶接)	板厚 6 < t ≦ 16		★測定箇所 1	
	*	開先部の目違い(b)			
		b = 025t		4 2	
管		板厚 16 < t			
n   *		開先部の目違い(b)			
妾 1		b ≦ 4		3	
		ルート間隔 (a)	<ul><li>・口径、管種毎に全接 合箇所測定</li></ul>	(呼び径800A以上) V形内開先 16mm未満	·写真管理 ·成果図 <del>、管割図</del>
		0 ≤ a ≤ 3	<ul><li>・各種継手点検表に記入</li></ul>	ルート間隔(a)	・継手チェックシート
		板厚 t ≦ 6		】	
		開先部の目違い(b)			
		b ≦ 1.5			
	鋼 管 突 合 せ 継 手 ( SP 、 SUS )	板厚 6 < t ≦ 20	1	X形開先 16mm以上	
	《両面溶接》	開先部の目違い(b)		ルート間隔(a)	
		b = 025t			
		板厚 20 < t ≦ 38	1		
		開先部の目違い(b)			
		b ≦ 5		★測定箇所は、片面溶接と同じ。	

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

#### 《P.5》

#### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(2/7)

ı	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
管の		総延長:L (L=250m未満)	-L /500	・出来形で算出した延長を現地で実測する。	1 2	•成果図
延長		総延長:L (L=250m以上)	-500		3	

#### 《P.6》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(3/7)

I	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
		キャップ中心位置:D (仕切弁)※4	D ≤ 50	・1箇所毎	鉄蓋外枠	•検査時確認
弁栓		GLからキャップ 迄の高さ: h (仕切弁)※5	h ≧ 150	・1箇所毎		・写真管理
類・鉄蓋の		GLから製品の天端 迄の高さ: h (消火栓・空気弁)※6	150 ≤ h ≤400	・1箇所毎		
据付		空気弁の据付 (水平確認)	空気弁を設置するフランジ面を水平より2度以内に据付ける ※7	-1箇所毎	<b>\$</b> 2° 以内	•写真管理
		路面との段差	段差が無いこと	-1箇所毎	(東京の (東京の) なごと ) 力 (東京の) (東京の	・検査時確認 ※舗装が仮復旧で終了 の場合は、仮復旧でも適 用する

#### 《P.5》

#### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(2/7)

I	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
管の		総延長:L (L=250m未満)	-L /500	・出来形で算出した延長を現地で実測する。	4	•成果図 <del>、管制図</del>
延長		総延長:L (L=250m以上)	-500		3	

#### 《P.6》

#### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(3/7)

ı	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
		キャップ中心位置:D (仕切弁)※4	D ≤ 50	-1箇所毎	鉄蓋外枠	-写真管理
弁栓		GLからキャップ 迄の高さ: h (仕切弁)※5	h ≧ 150	・1箇所毎		・写真管理
類・鉄蓋の		GLから製品の天端 迄の高さ: h (消火栓・空気弁)※6	150 ≤ h ≤300	•1箇所毎		
据付		空気弁の据付 (水平確認)	空気弁を設置するフランジ面を水平より2度以内に据付ける ※7	・1箇所毎	2° UA	•写真管理
		路面との段差	段差が無いこと	・1箇所毎	鉄直頭 「ザックびること」 h	・ <del>写真管理</del> ※舗装が仮復旧で終了 の場合は、仮復旧でも適 用する

### 改訂後(令和4年10月)

#### 《P.10》

#### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(6/7)

	L種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
区通	ij	厚さ: t (溶融式のみ)	設計值以上	・各線種毎に、1箇所テ ストピースにより測定		・写真管理(線種が多い 場合は代表的なものを1~ 2種類撮影)
級工		幅:w	設計值以上			

#### 《P.11》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(7/7)

I	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法	
	上層路盤工	厚さ	-30	・測点又は施工延長 40mにつき1箇所以上	《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満	·写真管理 ·出来形管理図表	
	(粒調砕石)	幅	-50				
	A s 安	厚さ	-20	・測点又は施工延長 40mにつき1箇所以上	- 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定 (任意)。 《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満	·写真管理 ·出来形管理図表	
舗	定処理	福	-50		②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満		
m装 (本復旧	A	厚さ	-12	・測点又は施工延長 40mにつき1箇所以上	- 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定(任意)。 《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満	·写真管理 ·出来形管理図表	
)	基層	幅	-25		②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満		
		厚さ	-9	・測点又は施工延長 40mにつき1箇所以上	- 厚さは、1,000㎡ 「1個の割でコアーを採取して測定 (任意)。 ・連統で舗装面積1,000㎡未満の工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	·写真管理 ·出来形管理図表	
	A s 表層	幅	-25		《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満		
		平坦性	3m7 <sup>*</sup> ¤7 <i>4k</i> /-タ- (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				

### 《P.10》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(6/7)

改訂前(令和4年4月)

工程	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法
区画	厚さ: t (溶融式のみ)	設計値以上	・各線種毎に、1箇所テ ストピースにより測定		- 写真管理
線工	幅:w	設計値以上			

#### 《P.11》

### [2]出来形管理基準

1. 出来形管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(7/7)

I	種	測定項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所	管理方法	
	上層路盤工	厚さ	-30	・測点若しくは施工延 長40mにつき1箇所以 上	《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満	· 写真管理 · 出来形管理図表	
舗装 (本復旧	(粒調砕石)	幅	-50				
	A s 安·	厚さ	-20	長40mにつき1箇所以 上	- 厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 (規格値の対象範囲) (①施工面積で10,000㎡未満 (②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,0001未満	·写真管理 ·出来形管理図表	
	定処理	福	-50				
	As	厚さ	-12		・厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満	·写真管理 ·出来形管理図表	
٠	基層	幅	-25		②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満		
		厚さ	-9	・測点若しくは施工延 長40mにつき1箇所以 上	・厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 ・連続で舗装面積1,000㎡未満の工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	·写真管理 ·出来形管理図表	
	A s 表層	幅	-25		《規格値の対象範囲》 ①施工面積で10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000t未満		
		平坦性	3m7 <sup>*</sup> ロフィルメーター (g)2.4mm以下 直読式(足付き) (g)1.75mm以下				

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

《P.18》

### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(1/6)

工種	試験項目	試 験 方 法	規 格 値	試 験 基 準	管 理 方 法
	管路水圧試験 ※1	は設計静水圧のいずれか 大きい方とする ・管内に充水し所定の水圧 を負荷し、一定時間保持し	・試験水圧を負荷して、24時間 経過後に試験水圧(MPa)× の9MPa以上の水圧を保持してい ること ・圧力変化を記録し、管路の異 常や異常な圧力変化が生じては ならない	- 管径800mm以下の管路 ・管路工事完了時	・記録可能な水圧測定 機器により記録したもの ・容真管理 ・監督員の立会
	継手部水圧試験 ※1	・試験水圧0.5MPa程度で 5分保持してこの間のの圧 力変化を測定	・試験水圧を負荷して、5分経 適後に0.40MPa以上を保持して いること ・5分経過後の圧力が0.40MPa 以上であっても、圧力の変化が継 続している場合は更に10分間 延長して確認すること。	・監督員と協議のうえ、この試	・報告書 ・写真管理 ・監督員の立会
	不断水等水圧試験	ダクタイル鋳鉄管 ・取り付け後1.30M P a の 水圧を1分間かけて漏水の 有無を確認	・試験水圧に耐え、漏水等異常が無いこと	- 施工箇所毎	・写真管理 ・監督員の立会
水圧試験		※鋳鉄管・HIビニル管・ 鋼管 ・取り付け後1.30M P a の 水圧を1 分間かけて漏水の 有無を確認	・試験水圧に耐え、漏水等異常が無いこと	・施工簡所毎 ※危険と判断する管路の場合 は、監督員と協議の上、試験 水圧を変更し行うこと。	・写真管理 ・監督員の立会
		※石綿管・ビニル管・ボリエ チレン管 ・取り付け後0.75MPaの 水圧を1分間かけて漏水の 有無を確認	が無いこと	・施工箇所毎 ※危険と判断する管路の場合 は、監督員と協議の上、試験 水圧を変更し行うこと。	・写真管理 ・監督員の立会
		口径20, 25mm ・試験水圧は、1.75MPaで 1分間	・1分経過後に著しい水圧低下 がないこと	- 対象箇所毎	•写真管理
	給水管水圧試験	口径40mm、40m以上 ・試験水圧は、0.75MPaで 24時間	<ul> <li>・24時間経過後に試験水圧 (MPa) ×0.9MPa以上の水圧 を保持していること</li> </ul>	- 対象箇所毎	•写真管理
		口径40mm、40m未満 ・試験水圧は、1.0MPaで 1分間	・1分経過後に著しい水圧低下 がないこと	- 対象箇所毎	•写真管理
	仮設管路等水圧試 験 ※2	・接続後、管内に充水し水圧を負荷	・管路に漏水等異常が無いこと	・通水時	・写真管理若しくは監督員の立会

《P.18》

### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(1/6)

工種	試験項目	試 験 方 法	規 格	値	試験	基準	管理方法
	管路水圧試験 ※1	・試験水圧は、0.75MPa. は設計静水圧のいずれか 大きい方とする ・管内に充水し所定の水 を負荷し、一定時間保持 てこの間の圧力変化を測り	経過後に試験水原 0.9MPa以上の水 ること し・圧力変化を記録	E(MPa)× 圧を保持してい し、管路の異	·管径800㎜以 ·管路工事完了		・記録可能な水圧測定機器により記録したもの・写真管理・監督員の立会
	継手部水圧試験 ※1	・試験水圧0.5MPa程度 5分保持してこの間のの圧 力変化を測定		人上を保持して 力が0.40MPa 力の変化が継 更に 1 0 分間	・監督員と協議	のうえ、この	・報告書 ・写真管理 式・監督員の立会
	不断水等水圧試験	ダクタイル鋳鉄管 ・取り付け後1.30M P a 水圧を1分間かけて漏水有無を確認		、漏水等異常	·施工箇所毎		・写真管理 ・監督員の立会
水圧試験		※鋳鉄管・HIピニル管・ 鋼管 ・取り付け後1.30MPa 水圧を1分間かけて漏水 有無を確認	が無いこと	、漏水等異常	・施工箇所毎 ※危険と判断す は、監督員と協 水圧を変更し行	議の上、試験	
		<ul><li>※石綿管・ビニル管・ボリ チレン管</li><li>・取り付け後0.75M P a 水圧を1分間かけて漏水 有無を確認</li></ul>	が無いこと	、漏水等異常	・施工箇所毎 ※危険と判断。 は、監督員と協 水圧を変更し行	議の上、試験	
		口径20, 25mm ・試験水圧は、1.75MPa <sup>-</sup> 1分間	・1分経過後に著し がないこと で	い水圧低下	·対象箇所毎		· 報告書 · 写真管理
	給水管水圧試験	口径40mm、40m以上 ・試験水圧は、0.75MPa 24時間	・24時間経過後に (MPa)×0.9MF を保持していること		·対象箇所毎		· <del>報告書</del> · 写真管理
		口径40mm、40m未満 ・試験水圧は、1.75MPa 1分間	・1分経過後に著し がないこと	い水圧低下	·対象箇所毎		→報告書 ・写真管理
	仮設管路等水圧試 験 ※2	・接続後、管内に充水した 圧を負荷	水・管路に漏水等異	常が無いこと	•通水時		・写真管理若しくは監督 員の立会

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

《P.19》

#### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(2/6)

工種	試験項目	試験	方	法	規 格	値	試	験 基	準	管	理	方	法
管の溶	放射線透過試験 ※4	•ЛS Z 3104 •ЛS Z 3106 •ЛS Z 3050			きずの分類はIS Z Z3106の3類以上 ・内面へごかはその音 真濃度がこれに接す の透過写真濃度 (JS Z 3050) ・溶落とは、いかなる 寸法も1個につき6m 厚のいずれか小さい 試験部の有効長さ 法の合計長さ12mn (JIS Z 3050)	3分の透過写る母材部分超えないこと 方向に測った m又は管の肉方を超えず、 当たり最大寸	10%とし、抗 以下は1箇 箇所とする ※監督員( 増可能	「数は溶接値 最影1口につ 所、1000mm』 。 の指示で検査	き <b>900</b> mm 以上は2	·共通位 ·WSPOO ·写真管 ·監督員	08-202 F理	20参照	
接	超音波探傷試験 ※4	·JIS Z 3060			・M線を超える高さ 評価の対象とし(ル ル)、きずの分類に 3060の3類以上	1検知レベ	につき 2 億 督員が指示 ・検査長さ	は30cmを標準 の指示で検3	新は監 単とする	·共通位 ·WSP00 ·写真管 ·監督員	08-202 F理	20参照	

#### ※4 管の溶接の記録様式の提出について

管の溶接の検査記録については、「水道用鋼管現場溶接継手部の非破壊検査基準」 (日本水道鋼管協会)に準拠し、提出するものとする。 《P.19》

#### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(2/6)

工種	試験項目	試験	方	法	規 格	値	試	験	基準	į.	管	理	方	法
管の溶	放射線透過試験 ※4	•ЛS Z 3104 •ЛS Z 3106 •ЛS Z 3050			- きずの分類はISZ Z3106の3類以上・ 小面面へ3かはその部 真濃度がこれに接す の透過写真3度 (ISZ 3050) - 溶落をは、いかなる 寸法も1個につき6個 厚のいずれか小さい 試験の音列表と 試め合計長さ12mm (JISZ 3050)	分の透過写る母材部分 超えないこと 方向に測った 可又は管の肉 方を超えず、 当たり最大寸	10%とし、 以下は11 箇所とす ※監督 増可能	、撮影1口 箇所、10 る。	容接個所 コにつき90 100mm以上 で検査箇	Omm (\$2	·共通化·WSP00 ·SP00 ·写真智 ·監督	08-2020 管理	0参照	
接	超音波探傷試験 ※4	·JIS Z 3060			・M線を超える高さの評価の対象とし(Mル)、きずの分類に 3060の3類以上	検知レベ	につき2 督員が指 ・検査長	箇所でそ i示する さは30cm 員の指示	則として1 の箇所は を標準とすで検査箇 能	監 する	·共通仁 ·WSP00 ·写真管 ·監督	08-2020 管理	0参照	

#### ※4 管の溶接の記録様式の提出について

管の溶接の検査記録については、「水道用鋼管現場溶接継手部の非破壊検査基準」に 準拠し、提出するものとする。

### 改訂後(令和4年10月)

### 《P.20》

### 《P.20》

### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(3/6)

工租	Ē	試験項目	試	験 :	方	法	規	格	値	試	験	基	準	管	理	方	法
1	(無溶	外観検査	·JWWA	K 157					いむら、塗り -な塗膜であ	・すべて	の塗装圏	所		·共通( ·写真( ·監督)	管理		7参照
内	削	塗膜厚測定	·JWWA	K 157			·0.4mm以	上(プライマ	'-を含む)	・監督員	の指示	した箇月	听	・共通( ・写真( ・監督)	<b>管理</b>		4参照
装	キシ樹脂	ピンホール※5	·JWWA	K 157				<b>火花が発生</b>	用いて検査 するような欠		の塗装管	所		·共通( 5-3-7% ·写真( ·監督)	》照 管理		4及び
	塗 料 )	付着性試験	·JWWA	K 157			・へらを用 れないこと		、容易にはが	・監督員	の指示	した箇月	听	·共通位 5-3-7多 ·写真句 ·監督	》照 管理		4及び
	· タ	外観検査	·JWWA	K 115					いむら、塗り -な塗膜であ	・すべて	の塗装筐	所		·共通( 5-3-7% ·写真( ·監督)	》照 管理		5及び
外面	ポ	ピンホール※5	·JWWA	K 115				<b>火花が発生</b>	用いて検査 するような欠		の塗装値	所		·共通( 5-3-7% ·写真( ·監督)	》照 管理		5及び
塗装 は	脂	塗膜厚測定	·JWWA	K 115			・0.3mm以	Ŀ		・すべて	の塗装筐	所		·共通位 5-3-7多 ·写真行 ·監督	》照 管理		5及び
3	塗 料 )	付着性試験	·JWWA	K 115			・へらを用 れないこと		、容易にはが	・監督員	の指示	した箇月	听	·共通位 5-3-7多 ·写真句 ·監督	》照 管理		5及び
外面	ジョイン	外観検査	·JWWA	K 153			と ・ジョイン! 内に膨れ ・工場塗: 50mm以 ・耐衝撃: なきずがた	欠陥となる トコート両端 がないこと 装部との重 上 シートについ	いては、有害 ては固定パン		の塗装筐	前所		·共通( 5-3-7% ·写真( ·監督)	》照 管理		6及び
装	トコート )	ピンホール※5	·JWWA	K 153				<b>火花が発生</b>	用いて検査 するような欠		の塗装筐	所		·共通( 5-3-7名 ·写真( ·監督)	》照 管理		6及び
		塗膜厚測定	·JWWA	K 153			<ul><li>加熱収</li><li>厚さは、1</li></ul>		イントコートの	・すべて	の塗装値	所		·共通位 5-3-7名 ·写真句	》照 管理		6及び

# [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(3/6)

改訂前(令和4年4月)

工種	Ē	試験項目	試験方法	規 格 値	試 験 基 準	管 理 方 法
	(無溶	外観検査	·JWWA K 157	<ul><li>・異物の混入、著しいむら、塗り もれなどがなく、均一な塗膜であ ること</li></ul>	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
内 :	一剤 形 エ ポ	塗膜厚測定	-JWWA K 157	・0.4㎜以上(プライマーを含む)	・監督員の指示した箇所	・共通仕様書4-3-4参照 ・写真管理 ・監督員の立会
装	キシ樹脂	ピンホール※5	-JWWA K 157	・ピンホール探知器を用いて検査 を行い、火花が発生するような欠 陥がないこと	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-4及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
	塗 料 )	付着性試験	-JWWA K 157	・へらを用いてはつり、容易にはが れないこと	・監督員の指示した箇所	・共通仕様書4-3-4及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
	(タ	外観検査	-JWWA K 115	・異物の混入、著しいむら、塗り もれなどがなく、均一な塗膜であ ること	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-5及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
l ル 外 エ 面 ポ	ルエポ	ピンホール※5	-JWWA K 115	・ピンホール探知器を用いて検査 を行い、火花が発生するような欠 陥がないこと	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-5及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
塗装板	キシ樹脂塗	塗膜厚測定	-JWWA K 115	·0.3mm以上	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-5及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
1	<b>料</b>	付着性試験	-JWWA K 115	・へらを用いてはつり、容易にはが れないこと	・監督員の指示した箇所	・共通仕様書4-3-5及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
外面	(ジョイント	外觀檢查	-JWWA K 153	・焼損がないこと ・有害な欠陥となるめくれがないこと と ・ジョイントコート両端から50mm以 内に膨れがないこと ・工場塗装部との重ね長さは 50mm以上 ・耐衝撃シートについては、有害なきずがなく、テープ又は固定パソトで確実に固定されていること	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-6及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
装	・	ピンホール※5	-JWWA K 153	・ピンホール探知器を用いて検査 を行い、火花が発生するような欠 陥がないこと	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-6及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会
	*	塗膜厚測定	·JWWA K 153	・加熱収縮後のジョイントコートの厚さは、1.5mm以上	・すべての塗装箇所	・共通仕様書4-3-6及び 4-3-7参照 ・写真管理 ・監督員の立会

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

#### 《P.22》

### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装工事編》(5/6)

工種	試験項目	試 験 方 法	規 格 値	試 験 基 準	管 理 方 法
アスファル (施	温度測定(初期転圧前)	・温度計による。	110°C以上	- 本復旧にのみ適用	・温度管理表 ・写真管理 ・写真管理 ・1日4回(午前・午後 各2回) ただし、同一配 合の合材について日当た り施工量が100 未満の 場合は1日2回(午前・ 午後)又は測点若しくは 40m毎
下舗装工	温度測定(交通開放時)	- 温度計による。	50°C以下	- 本復旧にのみ適用	・温度管理表 ・写真管理 ・写真管理 ・1日4回(午前・午後 各2回) ただし、同一配 合の合材について日士た り施工量が100t 未満の 場合は1日2回(午前・ 午後)又は測点若しくは 40m毎

#### 《P.29》

#### [4]工事写真管理及び撮影基準

6. 写真の色彩・大きさ

写真は、カラー写真とし、大きさはL判等を標準とする。ただし、次の場合は別の大きさとすることができる。

- (1) 着手前、完成写真等はキャビネ版又はパノラマ写真(つなぎ写真可)とすることができる。
- (2) 電子媒体で記録した写真データのプリントは、カラー印刷とし、大きさについて
- は、原則としてA4判の用紙にL判等を標準にした写真をプリントすること。
- (3) 監督員が指示するものは、その指示した大きさとすること。

#### 《P.22》

#### [3]品質管理基準

1. 品質管理基準《水道施設(配管)・舗装丁事編》(5/6)

工種	試験項目	試 験 方 法	規 格 値	試 験 基 準	管 理 方 法
アスファ. (施	温度測定(初期転圧前)	・温度計による。	110°C以上	- 本復旧にのみ適用	・温度管理表 ・写真管理 ・写真管理 ・1日4回(午前・午後 各2回) ただし、同一配 合の合材について日 当た り施工量が100t 未満の 場合は1日2回(午前・ 午後)
ルト舗装エ	温度測定(交通開放時)	・温度計による。	50°C以下	- 本復旧にのみ適用	・温度管理表 ・写真管理 ・写真管理 ・1日4回(午前・午後 各2回) ただし、同一配 合の合材について日当た り施工量が1001 未満の 場合は1日2回(午前・ 午後)

#### 《P.29》

#### [4]工事写真管理及び撮影基準

6. 写真の色彩・大きさ

写真は、カラー写真とし、大きさはサービス判を標準とする。ただし、次の場合は別の大きさとすることができる。

- (1) 着手前、完成写真等はキャビネ版又はパノラマ写真(つなぎ写真可)とすることができる。
- (2) 電子媒体で記録した写真データのプリントは、カラー印刷とし、大きさについては、原則としてA4判の用紙にサービス判程度を標準にした写真をプリントすること。
- (3) 監督員が指示するものは、その指示した大きさとすること。

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

#### 《P.30》

#### [4]工事写真管理及び撮影基準

#### 9. 工事写真の整理方法

- ⑦ 規格値管理の写真(出来形管理・品質管理)を工事写真台帳に整理する場合は、 各測点毎に施工順序に従って貼ること。それ以外の規格値管理の写真があれば⑥の後 に貼ること。ただし、出来形管理・品質管理写真を別冊子で整理する場合は、工事写 真台帳に添付しなくても良い。
- ③ 写真貼付用紙の使用については、L判等が1ページに3枚ほど貼付出来るものとし横の空欄に撮影箇所(工種)を記入したもの1部を提出すること。

#### 《P.34》

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(3/9)

I			種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要	
	管	撤	去	・管弁類の撤去状況 ・撤去材の集積又は車上状況	実施箇所又は測点	・撤去材については、全数を できる状況で撮影する。	確認
				・撤去材の処分状況	必要に応じて	-	
配				・材料置き場全景	全箇所		
管				・材料保管状況	主面別		
エ		配管		・材料確認 (請負材料・補修塗料他)	実施箇所		
		HLE		・管の吊込み状況(機械、人力の別)	実施箇所又は測点		
				・土被り及び占用位置	実施箇所又は測点		
				・管の接合状況	実施箇所又は測点		

#### 《P.30》

#### [4]工事写真管理及び撮影基準

- 9. 工事写真の整理方法
  - ⑦ 規格値管理の写真(出来形管理・品質管理)を工事写真台帳に整理する場合は、 ⑥の後に各測点毎に施工順序に従って貼ること。ただし、出来形管理・品質管理写真 を別冊子で整理する場合は、工事写真台帳に添付しなくても良い。
  - ③ 写真貼付用紙の使用については、L判が1ページに3枚ほど貼付出来るものとし横の空欄に撮影箇所(工種)を記入したもの1部を提出すること。

#### 《P.34》

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(3/9)

I	-		種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
				<ul><li>管弁類の撤去状況</li></ul>	実施箇所又は測点	・撤去材については、全数を確認 できる状況で撮影する。
	管	撤	去	・撤去材の集積又は車上状況	大地國川人區州州	
#1				・撤去材の処分状況	必要に応じて	
配				・材料置き場全景	全箇所	
管				・材料保管状況	王阿//	
エ		配管		<ul><li>材料確認(請負材料・補修塗料他)</li></ul>	実施箇所	・管番号、継手番号を明示し撮影 する。
		HU III		・管の吊込み状況(機械、人力の別)	実施箇所又は測点	
				・土被り及び占用位置	実施箇所又は測点	
				・管の接合状況	実施箇所又は測点	

### 改訂後(令和4年10月)

《P.35》

《P.35》

別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(4/9)

I	種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘要
		・管の接合状況(全工程)	実施箇所又は 10測点に1箇所	<ul><li>接合作業の全工程は、管種・口 径別に10測点に1箇所撮影する。</li></ul>
		鋳鉄継手		~ .
		GX形等の場合(呼び径75~450)		
		1管の清掃		
		②ロックリング 等の確認		
		③ゴム輪のセット		
		④接合状况		
		⑤接合状況・確認	実施箇所又は測点	
		NS形の場合 (呼び径500~1000)		
		1管の清掃及び寸法確認		
		②ロックリング のセット		
		<ul><li>③ゴム輪・バックアップリングのセット</li></ul>		
		④接合状况		
		⑤接合状況・確認	実施箇所又は測点	
		配水用ポリエチレン管		
		EF (融着継手) の場合		
雪		1 融着面の切断		
		②融着面の清掃		
管		③融着面のマーキング		
I		④管と継手の固定		
		⑤融着準備		
		⑥融着状況 (融着時間·使用機材·発電機	実施箇所又は測点	
		種·容量等記入)		
		管切断状况 ※ 2	10箇所に1箇所	<ul><li>※2</li><li>・管切断状況の全工程は、管種・</li></ul>
		管切断状況(全工程)※タッピン等含む	10箇所に1箇所	口径別に10箇所に1箇所撮影す
		NS等 (鋳鉄管) の場合		る。 (予防保全含む) ただし、切管の出来形について
		1 管種の確認		は全箇所撮影する。
		②切断機設置·切断状況(使用機械記入)		
		③溝深さの確認		
		④挿し口端面から溝までの距離確認		
		⑤分割部分の面取り加工		
		⑥溝切り部の補修 (補修塗料)		
		⑦タッピン・リベット取付確認		
		⑧仕上がり確認		
		ポリエチレン管・ビニル管の場合	10箇所に1箇所	
		(全行程) ※ 2	Jan 100.1	
		1 専用器具確認		
		②切断状况		

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(4/9)

改訂前(令和4年4月)

エ	種撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
配管工	種 撮影箇所及び内容 - 管の接合状況(全工程)※2 - 持枚製手 GX形等の場合(呼び径75-450)※2 - 1管の清勝 (ジロックリング等の確認 (ジゴム輪のセット (送接合状況 (送接合状況・確認  NS形の場合(呼び径500~1000)※2 - 1管の清掃級び寸法確認 (ジロックリングのセット (ジゴム輪・バックアップリングのセット (送接合状況・確認  起大用ポリエチレン管 EF (熱着製手)の場合※2 - 1融高皿の切断 (添除者批別・確認  起来者にの場合※2 - 1融着面の可マーキング (会管と継手の固定 (添養者共列 (添養者 (添養者 (添養者 (添養者 (添養者 (添養者 (添養者 (添養者	実施箇所若しくは 10測点に1箇所 実施箇所又は測点 実施箇所又は測点	単2 ・管番号、様子番号を明示し継子 ごとに撮影する。 ・接合作業の全工程は、管種・口 様別に10別点に1箇所撮影す 5。
		1 0 箇所に 1 箇所 1 0 箇所に 1 箇所 1 0 箇所に 1 箇所	張3 ・管切断状況の全工程は、管種・ 口径別に10頭所に10頭所に11頭が勝ぎす 。(学的保全的を ただし、切管の出来形について は変勝号を明示し、全額所撮影す 。

### 改訂後(令和4年10月)

### 《P.36》

#### 《P.36》

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(5/9)

エ	種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
		- 既設管との連絡配管状況	実施箇所又は測点	
		(不断水連絡工含む)	大房國///人區/////////////////////////////////	
		<ul><li>・水圧試験状況(開始・終了)</li></ul>	実施箇所	
	配管	· 水圧試験状況 (不断水)	実施箇所	
		· 仮設配管通水状況	実施箇所	
		・水圧試験状況(テストパンド)	実施箇所	
		・溶接部の検査状況	実施箇所	
ľ		· 配筋間隔		
		· 型枠設置状況		
	oe: /n =#	・形状・寸法	実施箇所又は測点	
	管 保 護	・コンクリート打設状況		
		・鋼材防護特殊輪等の取付け状況	全箇所	
		<ul> <li>管防護板設置工</li> </ul>	実施箇所又は測点	
		・被覆状況(ラップ長さ、固定箇所)	実施箇所又は測点	
	防食用ポリエチレンス	<ul><li>管明示の状況</li></ul>	実施箇所又は測点	
	リーブ被覆工(浸透防 止スリーブエを含む)	・ロケーティング ワイヤー設置状況	実施箇所又は測点	
雪	11,1,7,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,	・管明示シート設置状況	実施箇所又は測点	
管	弁 栓 類 据 付 け	・弁の据付状況 (副警、副弁取付含む)	実施箇所	・水平器を設置
I	仕切弁ボックス設置工	・仕切弁ポックス設置状況	実施箇所	・水平器を設置
		弁栓室設置状況	実施箇所	・水平器を設置
	弁栓室等設置工	<ul><li>弁栓室設置状況</li></ul>		
	(コンクリート弁栓室)	・敷きモルタル状況		
		・鉄蓋設置状況 (ポルト締付け状況)		
		弁栓室設置状況	実施箇所	・水平器を設置
		・レジコンボックス据付状況(1段目)		
	弁栓室等設置工	(コーキング剤塗布状況)		
	(レシ゛コンホ゛ックス)	・レジコンボックス据付状況(2段目)		
		・鉄蓋設置状況 (ポルト締付け状況・確認)		
		(マンホール用超速硬グラウト材充填状況		
	NA 605	· 洗管状况		
	洗 管 工	(洗管作業により撮影)	実施箇所	
		<ul><li>出庫状況</li></ul>	その都度	
	支 給 材 料	· 材料置場状況	その都度	
		<ul> <li>返納状況</li> </ul>	その都度	

## 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(5/9)

改訂前(令和4年4月)

I	種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
		・既設管との連絡配管状況 (不断水連絡工含む)	実施箇所又は測点	※4 ・オフセットは、成果品で提出する場合に必要とする(監督員の立
		<ul><li>・水圧試験状況(開始・終了)</li></ul>	実施箇所	会必要)。
		<ul> <li>水圧試験状況 (不断水)</li> </ul>	実施箇所	
	配管	<ul> <li>仮設配管通水状況</li> </ul>	実施箇所	
	HU III	<ul><li>・水圧試験状況 (テストバンド)</li></ul>	実施箇所	
		・溶接部の検査状況	実施箇所	
		・オフセット測量 ※4	始点、終点、弁類、その他	
•	管 保 護	- 配筋関隔 - 型棒投置状況 - 形状・寸法 - コンクリート打設状況	実施箇所又は測点	
		・鋼材防護特殊輪等の取付け状況	全箇所	
		<ul> <li>管防護板設置工</li> </ul>	実施箇所又は測点	
		<ul><li>被覆状況 (ラップ長さ、固定箇所)</li></ul>	実施箇所又は測点	
	防食用ポリエチレンス	<ul> <li>管明示の状況</li> </ul>	実施箇所又は測点	
西己	リーブ被覆工(浸透防	・ロケーティング ワイヤー設置状況	実施箇所又は測点	
	止スリーブ工を含む)	<ul><li>管明示シート設置状況</li></ul>	実施箇所又は測点	
管工	弁 栓 類 据 付 け	・弁の据付状況(馴管、副弁取付含む)	実施箇所	・水平器を設置
	仕切弁ポックス設置工	・仕切弁ボックス設置状況	実施箇所	・水平器を設置
Ì		弁栓室設置状況	実施箇所	・水平器を設置
	弁栓室等設置工	<ul> <li>并栓室設置状況</li> </ul>		
	(コンクリート弁栓室)	・敷きモルタル状況		
		<ul><li>鉄蓋設置状況 (ボルト締付け状況)</li></ul>		
ŀ		弁栓室設置状況	実施箇所	・水平器を設置
		<ul> <li>レジ コンボ ッケス据付状況 (1段目)</li> </ul>		
	弁 栓 室 等 設 置 工	(コーキング 剤塗布状況)		
	(レシ゛コンホ゛ックス)	・レジ コンボックス据付状況 (2段目)		
		<ul><li>鉄蓋設置状況 (ボルト締付け状況・確認)</li></ul>		
		(マンホール用超速硬グラウト材充填状況		
ŀ		<ul> <li>洗管状況</li> </ul>		
	洗 管 工	(洗管作業により撮影)	実施箇所	
ŀ		・出庫状況	その都度	
	支給材料	<ul> <li>由率状况</li> <li>材料置場状況</li> </ul>	その都度	
	文和 10 科	· 材料直場状況	その都度	
		- 必附(人,元	ての郁度	

### 改訂後(令和4年10月)

#### 以可没(11414年10万)

### 《P.38》 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(7/9)

エ			種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
				・刃口、支圧壁の設置状況	実施箇所	
	仮	設 備	エ	・各種設備設置撤去状況(推進設備、推進機、 坑口、泥水処理設備等)	1路線1回	
-	推	<b>¥</b>	_	· 管材料検査	1路線1回	・管材は、管番号を明示し撮影する。
	推	進	I	・掘削、残土搬出、裏込め注入作業、砂充填作業の状況	1路線1回	
				「配管工」による。		※3 ・管番号、継手番号を明示し継手
				管挿入工 ※3	10本に1箇所	ごとに撮影する。 ※4 ・PN形(呼び径700以上)については、ゴム輪の位置確認後、 「押輪用ボルトのねじ出し(標準 等め付けトルクは、10N・m) で実施し、挿し口の再挿入を行う
推				· 挿入台車取付状況	10本に1箇所	
進				・鋳鉄管吊込み状況	実施箇所	
エ	配	管	エ	・挿口挿入状況	実施箇所	こと。
	BC E I	Б	_	・ゴム輸の確認、押輸用ボルトのねじ出し、再 挿入等 ※4	実施箇所	
				・継手チェック状況	実施箇所	
				・管接合完了	実施箇所	
		· 管挿入状況	実施箇所			
	推	進	П	・「仮設工」「土工」「基礎工」「鉄筋工」 「コンクリート工」「型枠工」による。		
	立		坑	・「仮設工」「土工」「基礎工」「鉄筋工」「コンクリート工」「型枠工」による。		

### 改訂前(令和4年4月)

#### 《P.38》

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(7/9)

エ		1	重	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
				・刃口、支圧壁の設置状況	実施箇所	
	仮	設 備 エ	I	・各種設備設置撤去状況(推進設備、推進機、 坑口、泥水処理設備等)	1路線1回	
		進	I	· 管材料検査	1路線1回	・管材は、管番号を明示し撮影する。
	推			・据削、残土搬出、裏込め注入作業、砂充填作 業の状況	1路線1回	
				「配管工」による。		※5 ・管番号、継手番号を明示し継手
				管挿入工 ※5	10本に1箇所	ごとに撮影する。 ※ 6 ・ P N 形 (呼び径700以上) につ
推				・挿入台車取付状況	10本に1箇所	いては、ゴム輪の位置確認後、 「押輪用ボルトのねじ出し(標準
進				・鋳鉄管吊込み状況	実施箇所	締め付けトルクは、10N·m)」 で実施し、挿し口の再挿入を行う
エ	配	管	I	• 挿口挿入状況	実施箇所	こと。
	но			・ゴム輪の確認、押輪用ボルトのねじ出し、再挿入等 ※6	実施箇所	
				・継手チェック状況	実施箇所	
				・管接合完了	実施箇所	
_				・管挿入状況	実施箇所	
	推	進		・「仮設工」「土工」「基礎工」「鉄筋工」 「コンクリート工」「型枠工」による。		
	立		坑	・「仮設工」「土工」「基礎工」「鉄筋工」「コンクリート工」「型枠工」による。		

### 改訂後(令和4年10月)

#### 以司後(节和4年10月)

### 《P.39》 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(8/9)

エ		7	重	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘要
			I	・敷き均し厚	実施箇所又は測点	
	路	盤		・転圧状況	実施箇所又は測点	
	路	26		・コアー採取状況(任意)	1,000㎡に 1 回	・セメント(石灰)安定処理工の 場合
			署 工	・敷き均し状況	実施箇所又は測点	・温度管理必要 (敷き均し後、開放時)
	基	层		・転圧状況	実施箇所又は測点	
舗	奎	冶		• 乳剤散布状況、砂散布状況	実施箇所又は測点	
装				・コアー採取状況(任意)	1,000㎡に1回	
衣	- 表			・敷き均し状況	実施箇所又は測点	・温度管理必要 (敷き均し後、開放時)
エ	表	長 層	I	・転圧状況	実施箇所又は測点	
	300			· 乳剤散布状況、砂散布状況	実施箇所又は測点	
				・コアー採取状況(任意)	1,000㎡に1回	
	付		装 備	・ガードレール及びガードバイブ、植樹、街 渠、側溝	実施箇所又は測点	
		帯装		・桝、区画線及び道路表示等の撤去及び復旧の 施工状況		
				配管状況(分水栓取付、穿孔作業、配管等)	実施箇所 (栓番)	※5 ・オフセットは、成果品で提出す
給	給		k エ 事	· 分水栓付近	実施箇所 (栓番)	る場合に必要とする(1 現場に1 回程度、監督員の立会必要)。
水	給	-L T		・メータボックス付近	実施箇所 (栓番)	
小	粨	水上		・給水土工(「土工」による。)	10箇所に1箇所	
エ				・水圧試験状況(全景、水圧ゲージ数値)	10箇所に1箇所	
				・オフセット測量 ※5	10箇所に1箇所	

### 改訂前(令和4年4月)

#### 《P.39》

#### 別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(8/9)

エ	エ		锺	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘 要
			I	・敷き均し厚	実施箇所又は測点	
	路	盤		・転圧状況	実施箇所又は測点	
	哈	26		・コアー採取状況(自主)	1,000ಗೆに1回	・セメント(石灰)安定処理工の 場合
			I	・敷き均し状況	実施箇所又は測点	・温度管理必要 (搬入時、敷き均し後、開放時)
	+	E		・転圧状況	実施箇所又は測点	
舗	基	層		· 乳剤散布状況、砂散布状況	実施箇所又は測点	
装				・コアー採取状況(自主)	1,000㎡に1回	
衣				・敷き均し状況	実施箇所又は測点	・温度管理必要 (搬入時、敷き均し後、開放時)
表	_	F	_	・転圧状況	実施箇所又は測点	
	衣	層	エ	· 乳剤散布状況、砂散布状況	実施箇所又は測点	
				・コアー採取状況(自主)	1,000㎡に1回	
			装 備	<ul><li>・ガードレール及びガードバイブ、植樹、街 栗、側溝</li></ul>		
	付	帯装		・桝、区画線及び道路表示等の撤去及び復旧の 施工状況	実施箇所又は測点	
			工事	配管状況(分水栓取付、穿孔作業、配管等)	実施箇所 (栓番)	※7 ・オフセットは、成果品で提出
給				· 分水栓付近	実施箇所(栓番)	る場合に必要とする(10箇所に 1回程度、監督員の立会必要)。
zk	<b>4</b> Λ	-l		・メータボックス付近	実施箇所 (栓番)	
小	和	水上		・給水土工(「土工」による。)	10箇所に1箇所	
エ				・水圧試験状況(全景、水圧ゲージ数値)	実施箇所(栓番)	
				・オフセット測量 ※7	実施箇所 (栓番)	

### 改訂後(令和4年10月)

### 改訂前(令和4年4月)

《P.40》

別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(9/9)

I	種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘要
	産業廃棄物運搬処分状況	・横込み状況、土の状態(建設発生土の場合)、運搬車両のナンバープレート等を入れる。(ただし全車両は必要ない。)	各種類につき1回 ※6	※6 ・各種類とは、副産物の種類のことで、発生土や汚泥、廃棄物等のこと。 以下、各項同じ
建	建設発生土運搬処分状況	・積込み状況、土の状態(建設発生土の場合)、運搬車両のナンバーブレート等を入れる。(ただし全車両は必要ない。)	各種類につき1回 ※6	
設副	現 場 内 利 用 状 況	・工事箇所が特定できるよう周辺の背景を入れる。	各種類につき1回 ※6	
産物	工事間利用状況	・搬出側工事現場と受入側工事現場を撮影する。工事箇所が特定できるよう周辺の背景を入れる。	各種類につき1回 ※ 6	
	受入地の状況	・受入先の現場状況	各種類につき1回 ※6	
	再資源化施設の状況	・原則として施設名称看板等を入れる。	各種類につき1回 ※6	
	最終処分場の状況	<ul><li>・直接最終処分する場合に限る。</li><li>・原則として施設名称看板等を入れる。</li></ul>	各種類につき1回 ※6	

《P.40》

別表-1撮影内容及び頻度

1. 水道施設工事(配管)・舗装工事編(9/9)

I	□ 種	撮影箇所及び内容	撮影頻度	摘要
	産業廃棄物運搬処分状況	・積込み状況、土の状態(建設発生土の場合)、運搬車両のナンバープレート等を入れる。(ただし全車両は必要ない。)	各種類につき1回 ※8	※8 ・各種類とは、副産物の種類のことで、発生土や汚泥、廃棄物等のこと。 以下、各項同じ
建	建設発生土運搬処分状況	・積込み状況、土の状態(建設発生土の場合)、運搬車両のナンバープレート等を入れる。(ただし全車両は必要ない。)	各種類につき1回 ※8	
設副	現場內利用状況	<ul><li>工事箇所が特定できるよう周辺の背景を入れる。</li></ul>	各種類につき1回 ※8	
産物	工事間利用状況	・搬出側工事現場と受入側工事現場を撮影する。工事箇所が特定できるよう周辺の背景を入れる。	各種類につき1回 ※8	
	受入地の状況	・受入先の現場状況	各種類につき1回 ※8	
	再資源化施設の状況	・原則として施設名称看板等を入れる。	各種類につき1回 ※8	
	最終処分場の状況	・直接最終処分する場合に限る。 ・原則として施設名称看板等を入れる。	各種類につき1回 ※8	